

あなたの企業・事業所のPRをしませんか

町では、人口減少対策の一環として、より多くの若者が地元への就職を希望されることを目的に、地元企業・事業所を広く紹介する「事業所ガイドおがの」を作成しています。このガイドは、新成人や進路を考えはじめる高校2年生等に配布するほか、町ホームページにも掲載しています。

あなたの事業所の魅力や仕事の内容・やりがい等をPRして、人材確保につなげませんか？掲載にご協力いただける企業・事業所は、提出方法及び提出先を確認のうえ、申込書を提出してください。（可能な限り電子データで提出してください。）申込書は、小鹿野庁舎・総合政策課で配布しているほか、町ホームページからもダウンロードできます。

なお、令和2年1月の成人式に配布するガイドに掲載を希望する場合は、10月31日(木)までに提出してください。

事業所ガイド掲載先及び申込書ダウンロード

町ホームページ

トップ画面 > 産業・入札・ビジネス > 事業所ガイドおがの

提出方法 ●【電子データの場合】下記のメールアドレスをお願いします。

【書面の場合】小鹿野庁舎・総合政策課まで持参いただくか郵送をお願いします。

提出先 ●〒368-0192 秩父郡小鹿野町小鹿野89番地
小鹿野町役場 総合政策課
メール wakate-pt@town.ogano.lg.jp

問合せ ●若手職員おがの創生プロジェクトチーム
産業振興・就労支援班(小鹿野庁舎・総合政策課)

☎75-4197



町長の
まち・ひと・しごと
魅力発信
～ 事業所訪問 vol.18 ～
「鹿人コンクリート
工業株式会社」
町内には、優れた技術を持った会社が多く
存在します。事業所の持つ技術や
魅力を町長自ら訪問して、目で見て、
お話を伺い、住民に情報発信する
「事業所訪問」を
連載します。



新製品の説明を受ける森町長

こんにちは。
町長です。



幼保連携型認定こども園「(仮称)おがのこども園」の創設に向けて

私は「子どもは町の宝」町全体で子育て支援を推進することを町政の柱として進めています。歴代町長も、子どもを生き育てる施策に一生懸命取り組んでまいりました。町では、平成27年度を初年度とする5か年間の「小鹿野町子ども・子育て支援事業計画」を策定し、計画の基本理念を「子どもを生き育てることに夢をもてるまち」として様々な事業展開を行っています。

この計画に基づき、小鹿野保育所に併設されていた子育て支援センターを旧三田川幼稚園の空き施設へ移転整備を行うなど、事業内容や人員体制の充実強化などがなされてまいりました。

さて、この計画の基になっている幼児数の推計ですが、現在この推計を大きく下回る状況になっています。計画では、平成31年1月1日時点で0歳児から2歳児の推計を191人と想定していましたが、実数は130人で大幅な乖離が生じています。

ところで、町の子育て支援策は、県内他市町村と比較してもトップクラスの充実度であると認識しています。具体的には、不妊に悩む方へのマイベビー支援事業、子育て支援金の給付、義務教育費の無償化(給食費の無料化、教材費の一部補助)、18歳までの医療費の無料化など数多くのメニューがあり、今年度は、第3子以降の子育て支援金の拡充を行いました。

このように子育て支援策を行っていますが、町の幼児数は、平成31年4月1日現在で、平成28年度生まれ

が45人、平成29年度生まれが43人、平成30年度生まれが34人と減少しています。平成20年度生まれの幼児数が104人であることから比較すると推計以上の減少となっており、県下トップクラスの子育て支援策を講じながら出生者数の増加が見込めず、大変厳しい状況となっています。

このような現状ではありますが、私は子育て支援策の後退は許されないと考えています。現在、令和2年度を初年度とする「第2期小鹿野町子ども・子育て支援事業計画」の策定を進めるとともに、公立保育所と公立幼稚園の一元化を図るべく幼保連携型認定こども園の創設に取り組んでいます。

認定こども園は、保育所と幼稚園の両方の機能を併せ持った施設で、現在の小鹿野幼稚園を活用して3歳児から5歳児が利用できるようにし、小鹿野保育所と両神保育所を小鹿野保育所に統合して、0歳(8か月)児から2歳児までが利用できる施設とする計画です。

厳しい町の財政状況ではありますが、幼保一元化を進めることで、幼児教育・保育環境や事業内容の充実を図り、将来を担う人材づくりを進めていかなければならないと思います。

認定こども園の創設に向けては、保護者の皆さんと職員による認定こども園準備検討委員会を組織し、主な協議事項に関する検討が終了しています。計画では、認定こども園の開設を来年4月1日に予定しておりますので、引き続き保護者の皆さんや町民の方々にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

小鹿野町長 森 真太郎

町長の見て・聞いて・話して

第18回の事業所訪問は、7月2日に鹿人コンクリート工業株式会社を訪問し、坂本和久社長にお話を伺いました。

鹿人コンクリート工業株式会社は、道路や河川工事、宅地造成などの土木工事で使用される、ヘイベック(大型ブロック)などのコンクリート二次製品の製造及び販売を行う会社です。1972年(昭和47年)の設立当初は、主に間知ブロックの製造販売でしたが、1981年(昭和56年)にヘイベックの製造販売の権利を取得されました。

ヘイベックは、間知ブロックの弱点を克服するために30年ほど前に考案された大型ブロック積み工法です。過去の経験に基づいた設計法を遵守し「適材適所」を心がけています。また、大型ブロックの特性を十分に生かした工法が安全性・経済性・施工性に優れています。

工場内で製造されたヘイベックは、県内や群馬県を中心に、関東一円と長野県、山梨県等の様々な現場において施

工されています。自社で図面を描き、設計することから、その日のうちに対応可能なため、災害復旧の際は迅速な対応ができたとのことでした。

同社は、暮らしの安全、安心の基盤を支える企業であるとともに、長年の信頼と自助努力があるからこそ、ヘイベックの製造において“日本一”を誇る企業であると感じました。

わが社の主力製品

当社の主力製品であるヘイベックは、従来のブロック積み・石積み工法のように、熟練工、専門工を多数必要とせず、一般的な重機で早く確実な施工ができます。ヘイベックの基本構造は、表面が1㎡(1500mm×666mm)の単体で、これを鉄筋(1㎡あたり2本又は4本の連結鉄筋)で連結させて壁体を一体化させる構造です。



施工されたヘイベック(大型ブロック)

ここに自信あり

当社は、依頼を受けると自社で図面作成や安定計算等を行うため、迅速な対応がお客様から厚い信頼を得ています。

ヘイベック工法は、様々な事例や指摘の中から工夫・改良を重ねてきました。大型ブロック積擁壁の先駆者として全国で施工され30年以上の実績があります。



坂本社長(左)

会社概要
 代表者 代表取締役社長 坂本和久
 従業員数 10名
 創業 1972年
 所在地 小鹿野町般若70
 電話 0494-75-0146